

# 京都市青少年意識行動調査

## 結果報告書

### (概要資料)

#### 〔調査概要〕

##### 1 調査目的

「新・京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画）」（仮称）の策定に当たり、青少年の意識や生活状況等について現状を把握し、京都市の取り組むべき課題と今後の方向性を明らかにするための基礎資料を得ることを目的に実施した。

##### 2 調査対象・方法

調査対象：市内に居住する13歳以上30歳以下の男女1,800人

抽出方法：住民基本台帳登録者及び外国人登録者から無作為抽出（平成21年11月1日現在）

調査方法：郵送による調査（督促1回）

調査期間：平成21年12月10日（木）～12月24日（木）

##### 3 調査内容

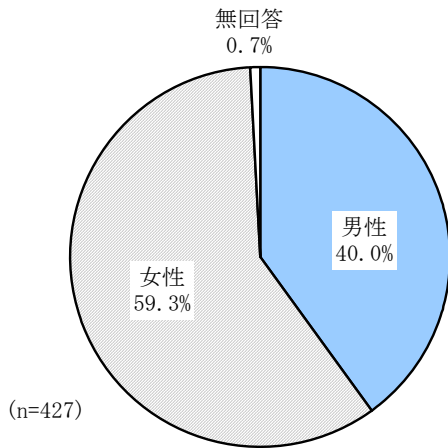
- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| (1) 回答者の属性      | (5) 市政やまちづくりについて |
| (2) 日常生活について    | (6) 青少年施設について    |
| (3) 気持ちや考え方について | (7) 京都に対する愛着意識   |
| (4) 地域活動について    | (8) 自由意見         |

##### 4 回収結果

配布数	回収数	回収率
1,800	427	23.7%

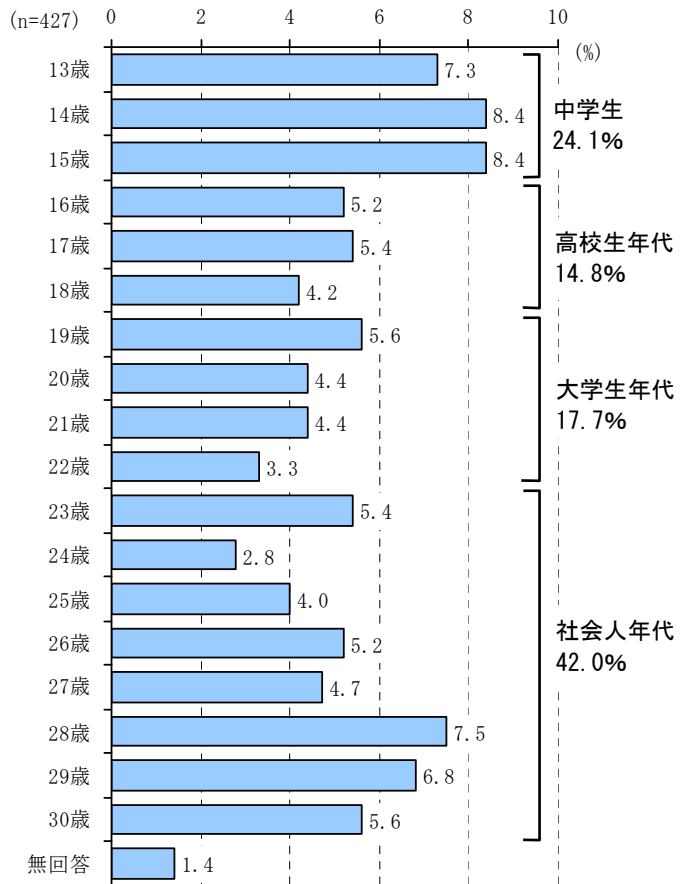
# 1 回答者の属性

## (1) 性別

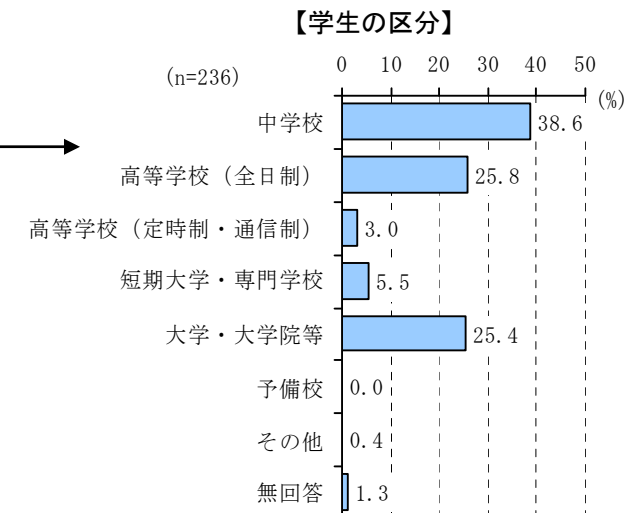
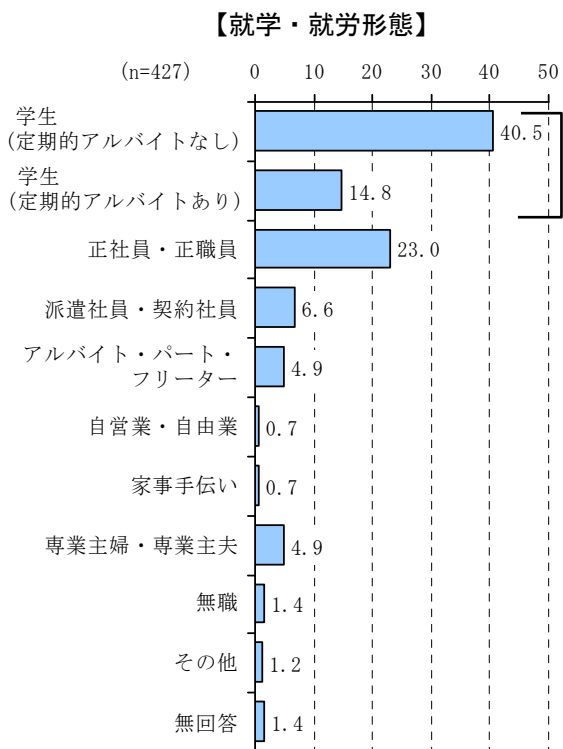


- 回答者の性別は、男性が40.0%、女性が59.3%で、女性の回答比率が高い。
- 回答者の年齢は、13～15歳の中学生が全体の24.1%、16～18歳の高校生年代が14.8%、19～22歳の大学生年代が17.7%、23～30歳の社会人年代が42.0%となっている。

## (2) 年齢



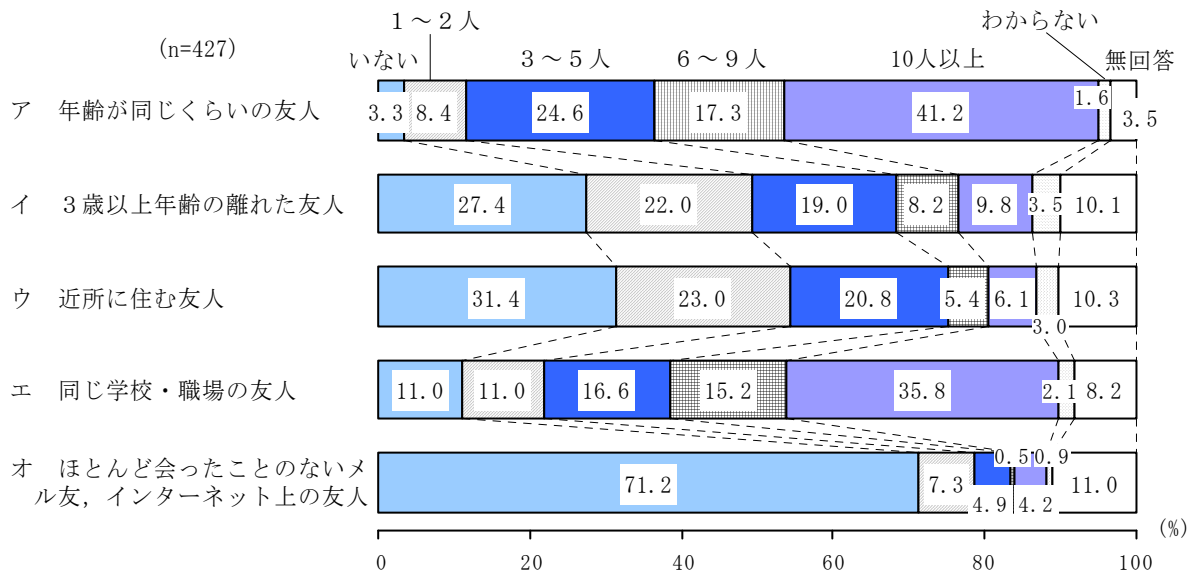
## (3) 就学・就労形態



- 「学生」が全体の55.3%を占める。
- 就労者は35.2%（「正社員・正職員」23.0%、「派遣社員・契約社員」と「アルバイト・パート・フリーター」の非正規雇用者11.5%）となっている。

## 2 日常生活について

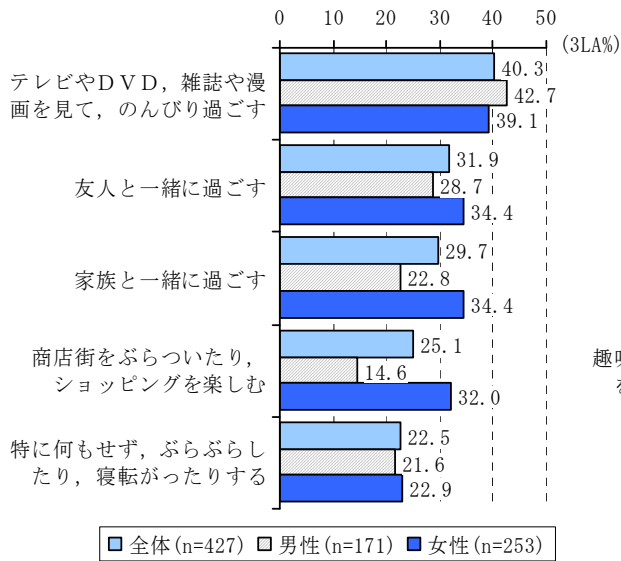
### (1) つきあっている友人の数



- 「ア 年齢が同じくらいの友人」は、「10人以上」が41.2%で最も多く、次いで「3～5人」(24.6%)となっている。
- 「イ 3歳以上年齢の離れた友人」と「ウ 近所に住む友人」は、「いない」(イ 27.4%, ウ 31.4%)が最も多く、次いで「1～2人」(イ 22.0%, ウ 23.0%)で、異年齢の交友関係は多くないことがうかがえる。
- 「エ 同じ学校・職場の友人」は、「10人以上」が35.8%で最も多く、次いで「3～5人」(16.6%)となっている。
- 「オ ほとんど会ったことのないメル友, インターネット上の友人」は、「いない」が71.2%で最も多いが、「1～2人」が7.3%、「10人以上」が4.2%と、インターネットを通じて見知らぬ友人と交流する青少年の姿も見られる。

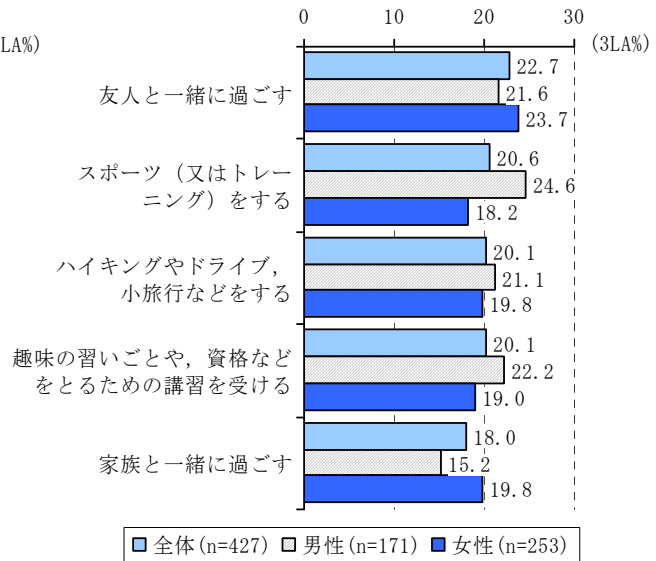
## (2) 休日の過ごし方

### ア 普段の休日の過ごし方



(上位5項目)

### イ 今後希望する休日の過ごし方

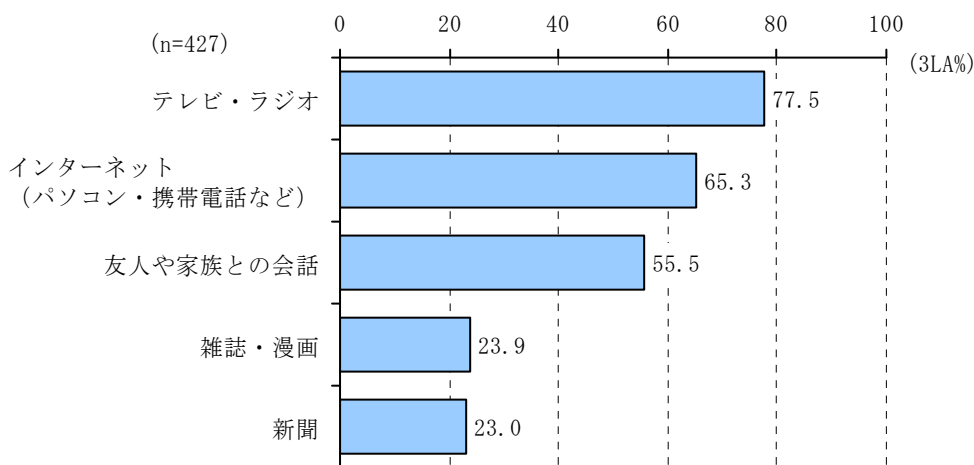


(上位5項目)

- 「テレビやDVD, 雑誌や漫画を見て, のんびり過ごす」が40.3%で最も多く, 消極的休養をとる青少年が多いことがうかがえる。
- 消極的休養に関する項目は男性で高く, 女性の方が活動に積極的で他者や外部とつながろうとする傾向が強い。

- 「友人と一緒に過ごす」(22.7%) や「スポーツ (又はトレーニング) をする」(20.6%), 「ハイキングやドライブ, 小旅行などをする」と「趣味の習いごとや, 資格などをとるための講習を受ける」(共に20.1%) などが多く, 普段の過ごし方と異なり, 積極的休養の希望が多いことがうかがえる。

## (3) 新しい知識や情報の入手方法

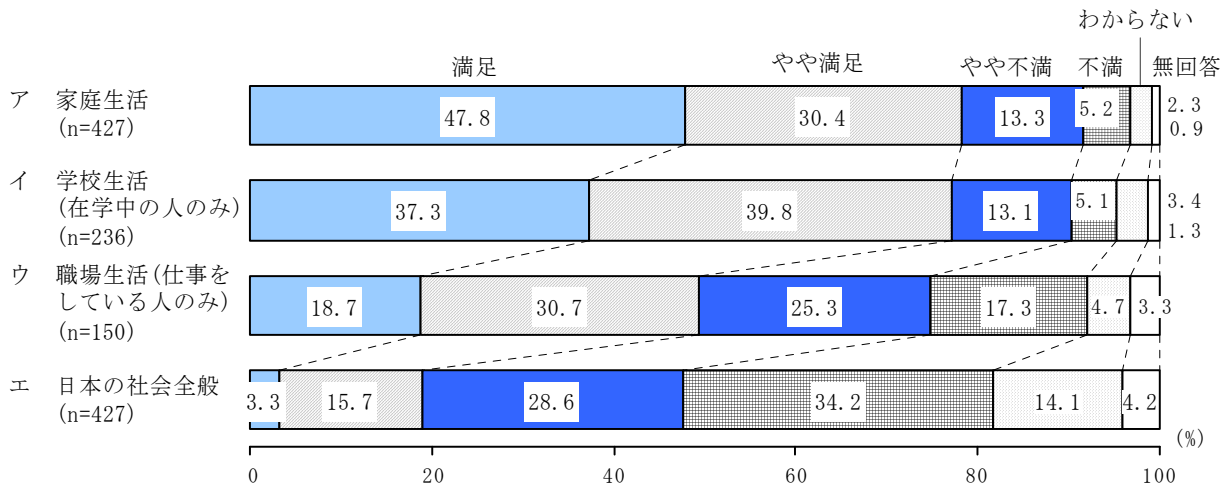


(上位5項目)

- 「テレビ・ラジオ」が77.5%で最も多く, 次いで「インターネット (パソコン・携帯電話など)」(65.3%), 「友人や家族との会話」(55.5%) となっている。

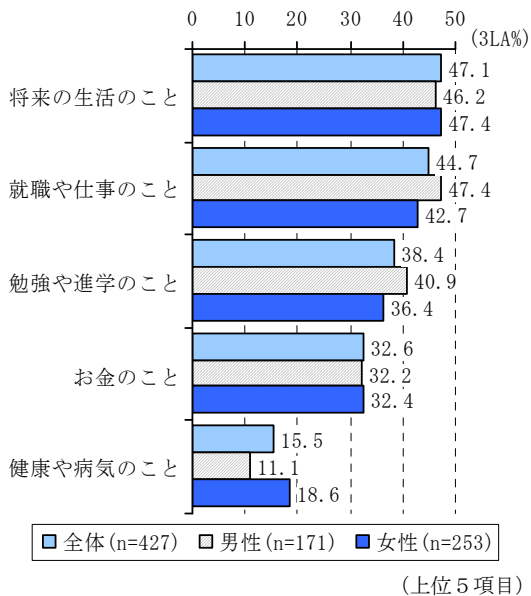
### 3 気持ちや考え方について

#### (1) 今の生活の満足度



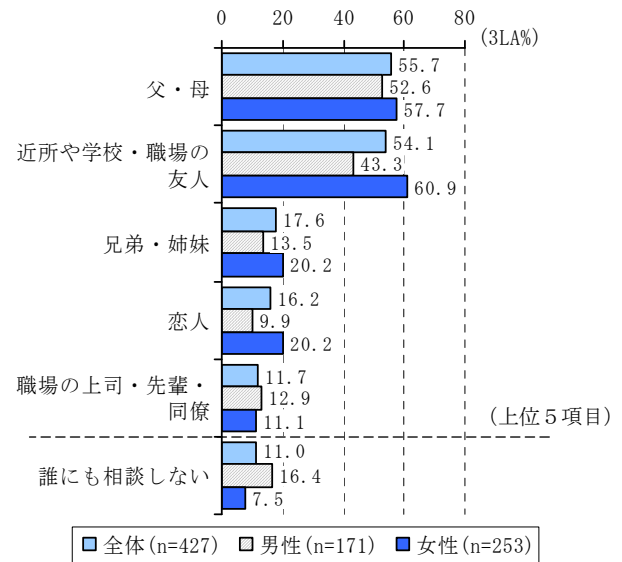
- 「ア 家庭生活」と「イ 学校生活」に対しては、「満足」（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）がそれぞれ78.2%，77.1%となっている。
- 「ウ 職場生活」に対しては、「満足」が49.4%，「不満」（「やや不満」と「不満」を合わせた割合）が42.6%で、「満足」のほうがやや多いものの、「不満」の割合との差は接近している。
- 「エ 日本の社会全般」に対しては、「不満」が62.8%で、他の項目と比較すると大幅に高くなっている。

#### (2) 悩みや心配ごと



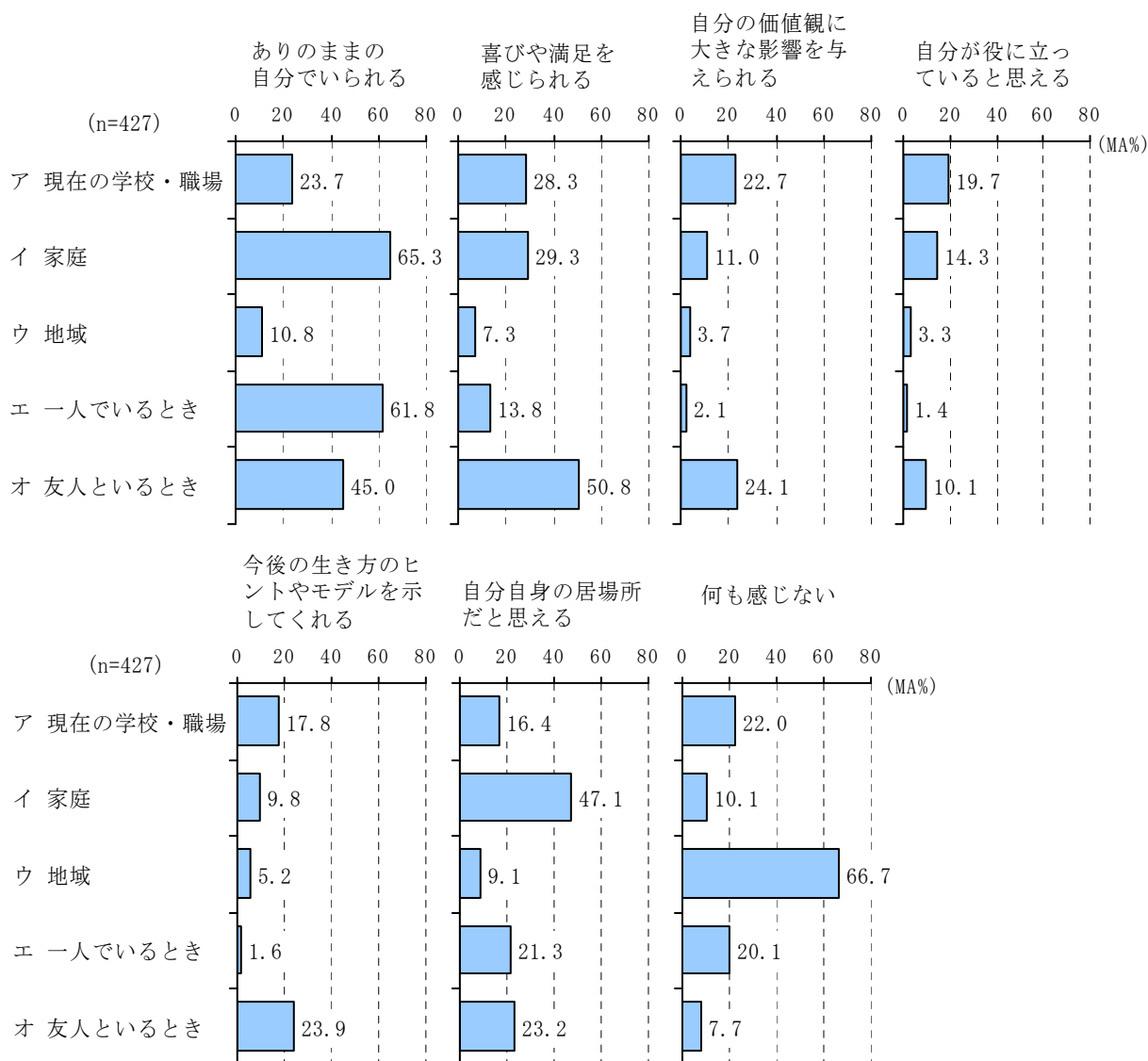
- 「将来の生活のこと」が47.1%で最も多く、次いで「就職や仕事のこと」（44.7%）、「勉強や進学のこと」（38.4%）、「お金のこと」（32.6%）となっている。

#### (3) 相談相手



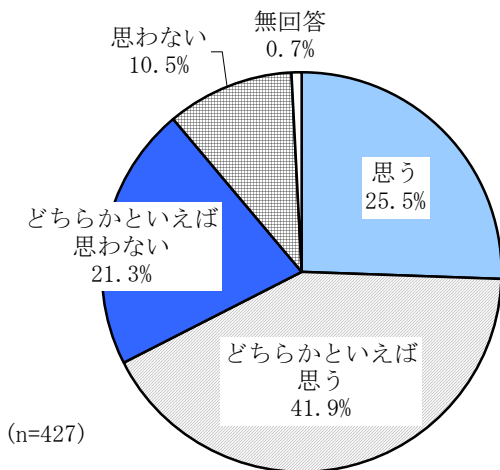
- 「父・母」が55.7%、「近所や学校・職場の友人」が54.1%でそれぞれ半数を超えている。
- 「誰にも相談しない」（11.0%）が10人に1人の割合となっている。

#### (4) 普段感じる気持ち



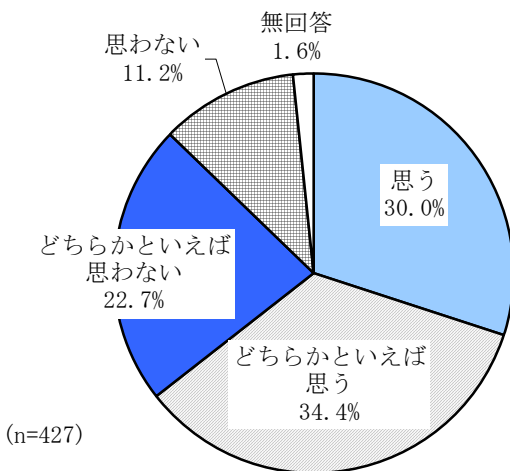
- 「ア 現在の学校・職場」は、「喜びや満足を感じられる」が28.3%で最も多く、次いで「ありのままの自分でいられる」(23.7%)となっている。全体的にどの項目も2割前後であり、青少年が生活時間の大半を過ごす場であるにもかかわらず、影響を受けているという認識が少ないということがうかがえる。
- 「イ 家庭」と「エ 一人有的时候」は、「ありのままの自分でいられる」(イ 65.3%, エ 61.8%)が過半数を占め、最も多い。
- 「ウ 地域」は、「何も感じない」が66.7%で最も多く、その他の項目は10%台か、それ以下となっており、影響を受けることが少ないということがうかがえる。
- 「オ 友人といるとき」では、「喜びや満足を感じられる」が50.8%を占め、次いで「ありのままの自分でいられる」も45.0%と半数近くを占める。

(5) 他者との関係に対する自己評価



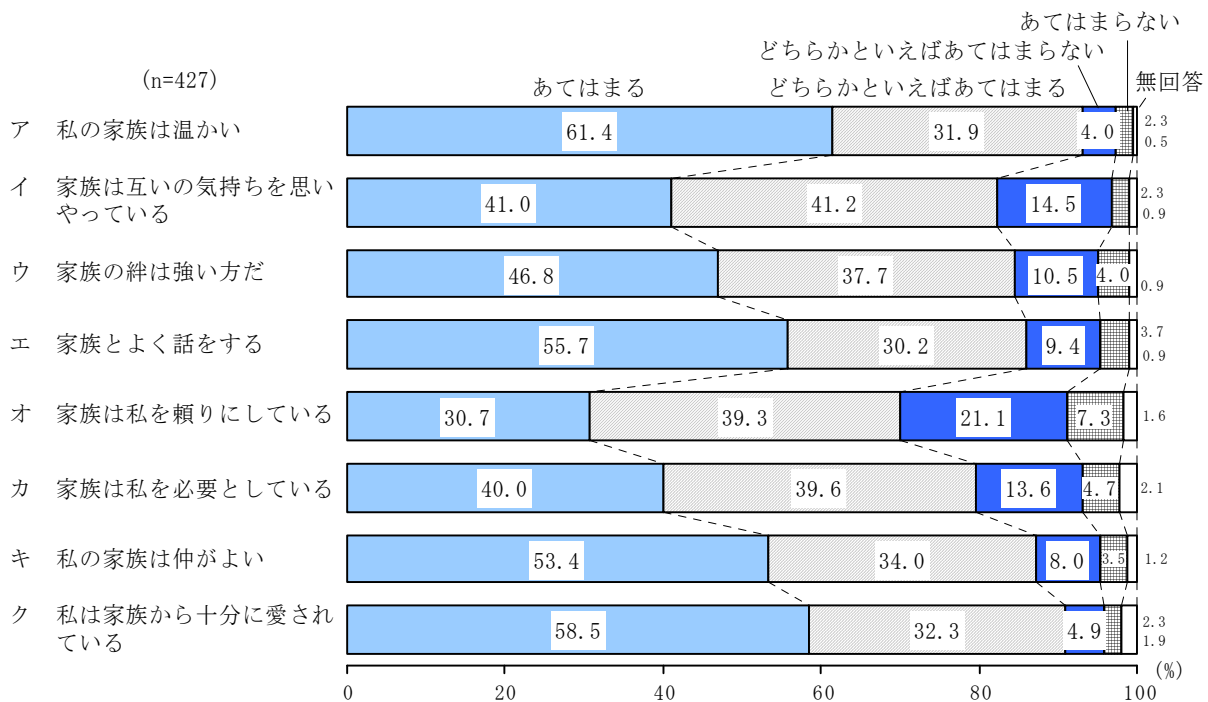
○「役に立っていると思う」（「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた割合）が67.4%に対し、「役に立っていると思わない」（「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた割合）は31.8%で、役に立っていると自己評価する青少年が多い。

(6) 自己の存在に対する自己評価



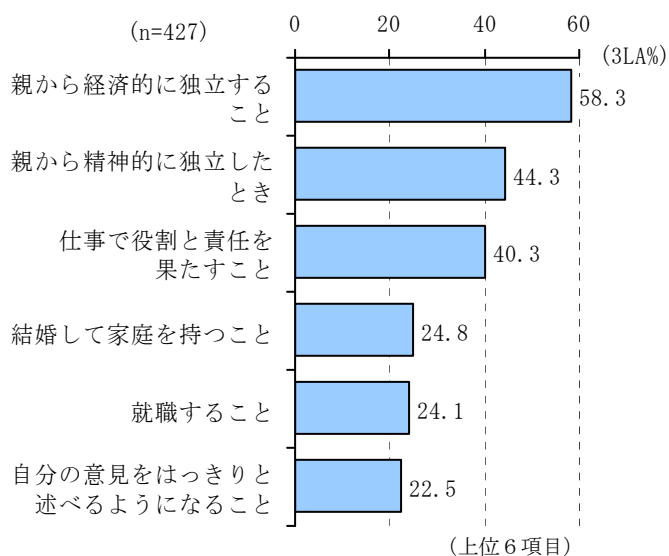
○「価値ある存在だと思う」（「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた割合）が64.4%に対し、「価値ある存在だと思わない」（「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた割合）は33.9%となっている。

## (7) 家族について



- 「あてはまる」（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合）は、いずれの項目も半数以上を占め、特に、「ア 私の家族は温かい」（93.3%）と「ク 私は家族から十分に愛されている」（90.8%）は9割を占める。
- 一方、「あてはまらない」（「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合）は、「オ 家族は私を頼りにしている」（28.4%）で最も高くなっている。
- 家族の愛情や絆を感じている青少年が多いが、家族との信頼関係に揺らぎを感じる青少年が3人に1人近くで少なくない。

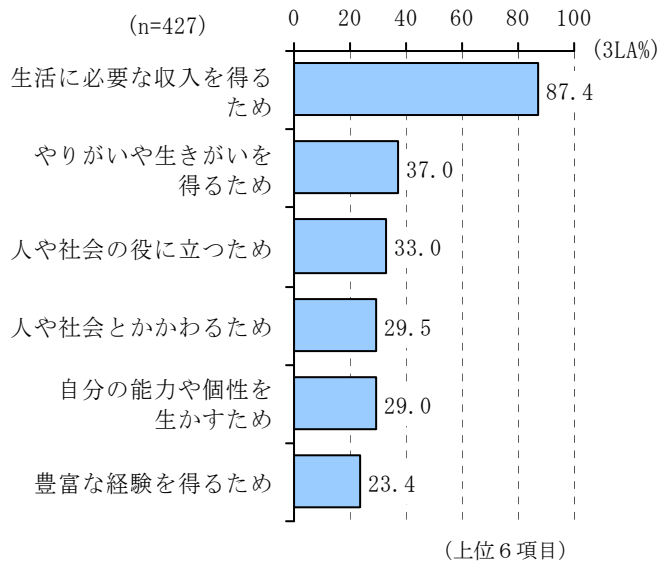
## (8) 自立意識（大人になることについて）



- 「親から経済的に独立するとき」が58.3%で最も多く、次いで「親から精神的に独立したとき」（44.3%）、「仕事で役割と責任を果たすこと」（40.3%）となっている。

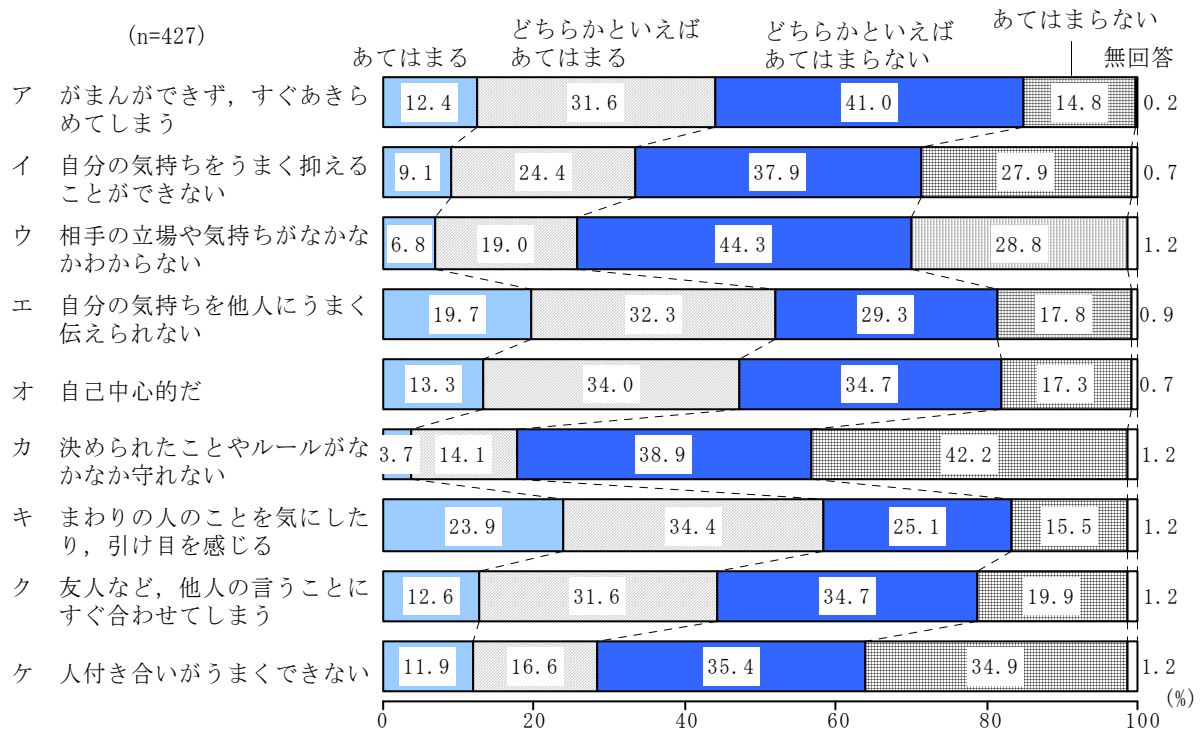


### (9) 働く目的に対する考え方



○「生活に必要な収入を得るため」が87.4%で最も多く、次いで「やりがいや生きがいを得るため」(37.0%)、「人や社会の役に立つため」(33.0%)となっている。

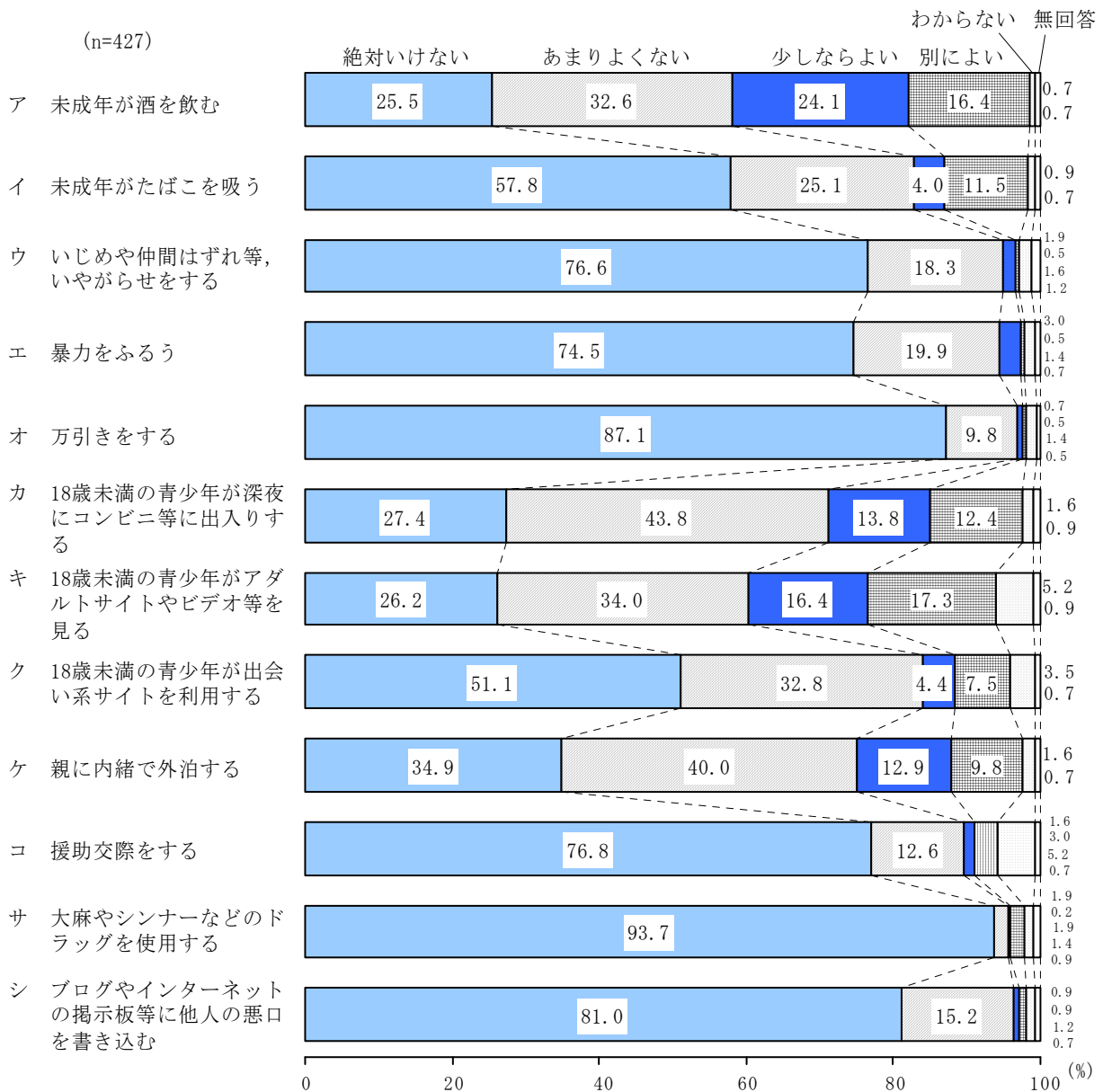
### (10) 自分の性格について



○「あてはまる」(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合)は、「キ まわりの人のことを気にしたり、引け目を感じる」が58.3%で最も高く、次いで「エ 自分の気持ちを他人にうまく伝えられない」(52.0%)、「オ 自己中心的だ」(47.3%)となっている。

○「あてはまらない」(「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合)は、「カ 決められたことやルールがなかなか守れない」が81.1%で最も高く、次いで「ウ 相手の立場や気持ちがなかなかわからない」(73.1%)となっている。

## (11) 規範意識



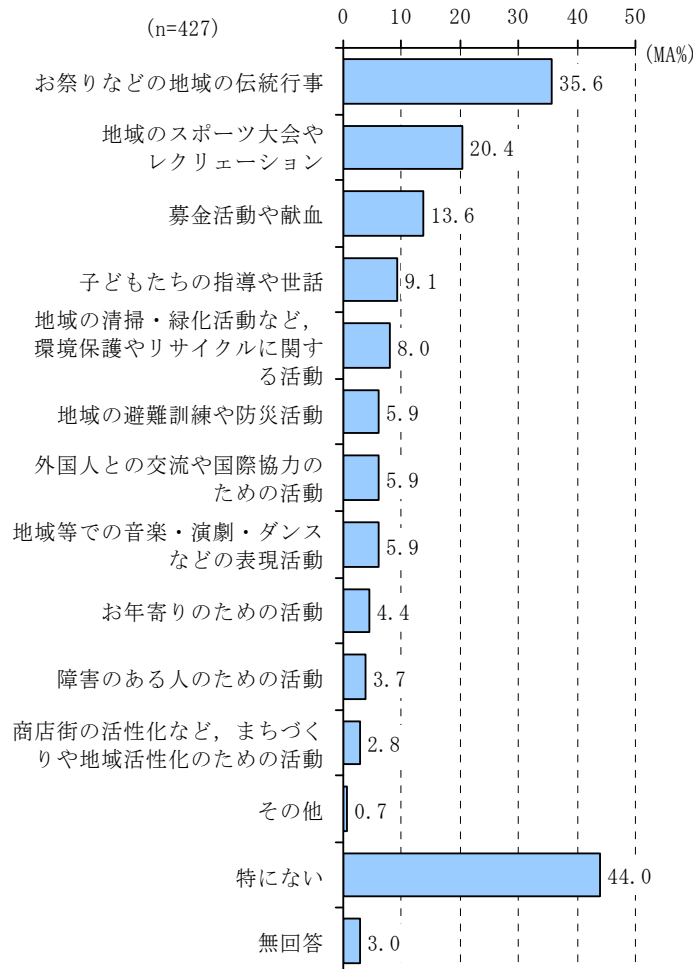
○「絶対いけない」の割合が最も高いのは、「サ 大麻やシンナーなどのドラッグを使用する」(93.7%)で、次いで「オ 万引きをする」(87.1%)、「シ ブログやインターネットの掲示板等に他人の悪口を書き込む」(81.0%)となっている。

○最も低いのは、「ア 未成年が酒を飲む」(25.5%)で、次いで「キ 18歳未満の青少年がアダルトサイトやビデオ等を見る」(26.2%)となっている。

○年齢(18歳未満や未成年など)により制限されている行動については比較的寛容であるが、年齢にかかわらず望ましくない行動については、規範意識が高いことがうかがえる。

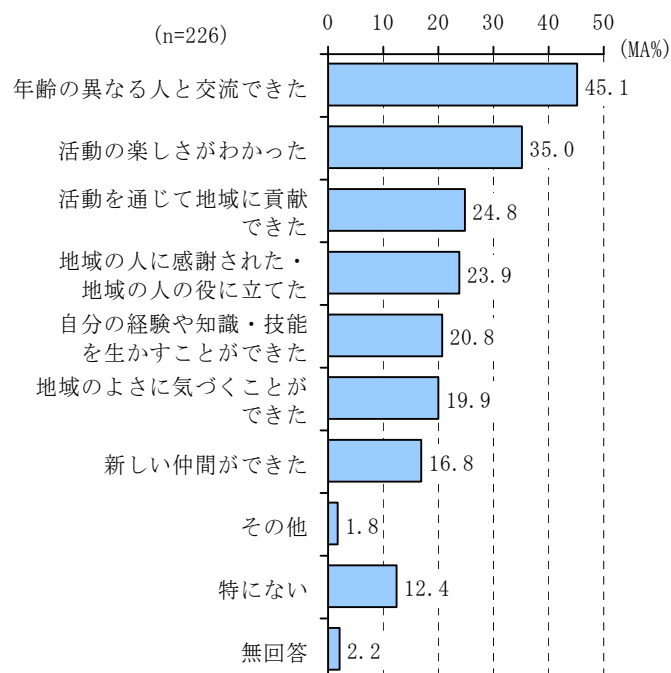
## 4 地域活動について

### (1) 活動への参加経験



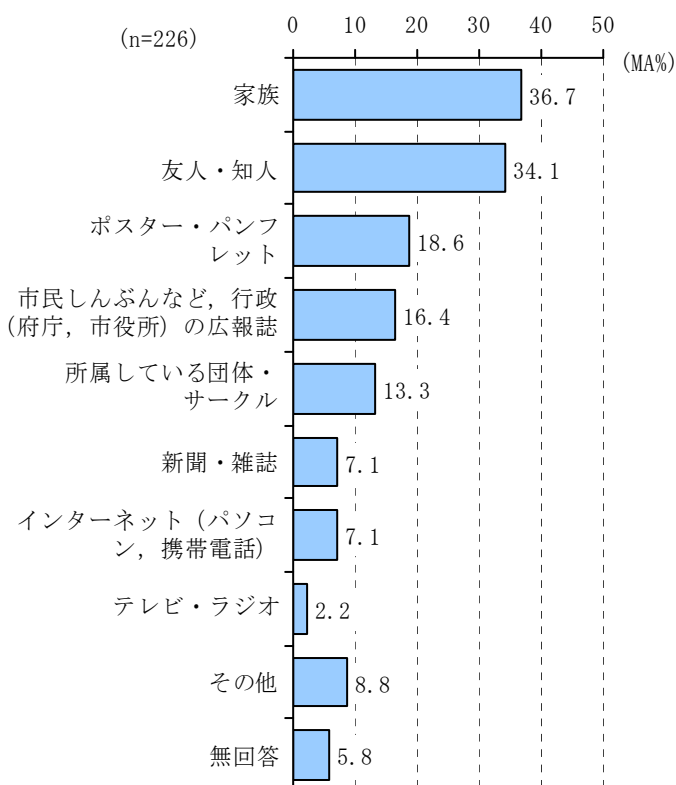
- 「お祭りなどの地域の伝統行事」が35.6%で最も多く、次いで「地域のスポーツ大会やレクリエーション」(20.4%)、「募金活動や献血」(13.6%)となっている。
- 「特にない」が44.0%となっている。

### (2) 地域活動に参加してよかったこと



- 「年齢の異なる人と交流できた」が45.1%で最も多く、次いで「活動の楽しさがわかった」(35.0%)、「活動を通じて地域に貢献できた」(24.8%)、「地域の人に感謝された・地域の人役に立てた」(23.9%)、「自分の経験や知識・技能を生かすことができた」(20.8%)となっている。

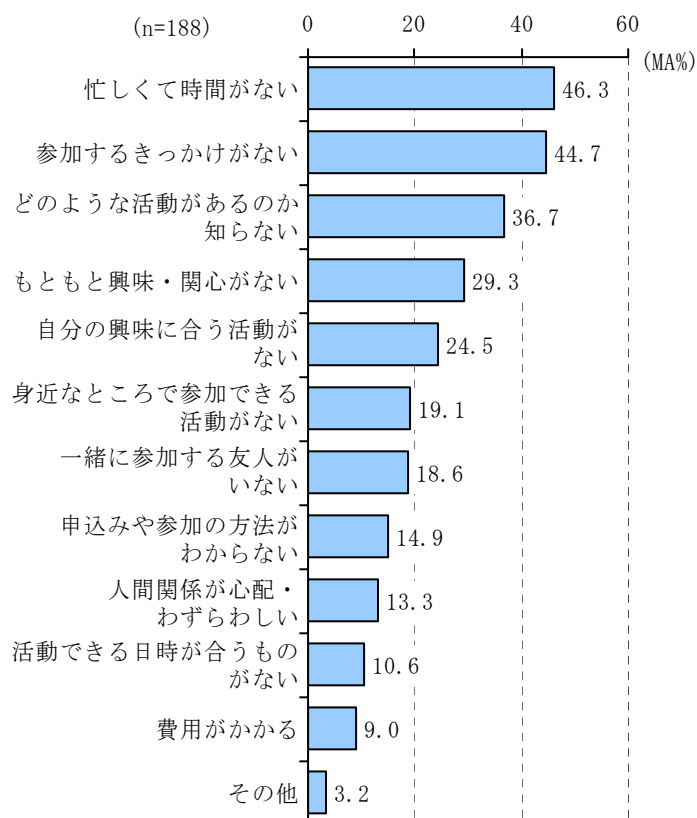
### (3) 参加した活動についての情報の入手経路



○「家族」が36.7%で最も多く、次いで「友人・知人」(34.1%),「ポスター・パンフレット」(18.6%)となっている。

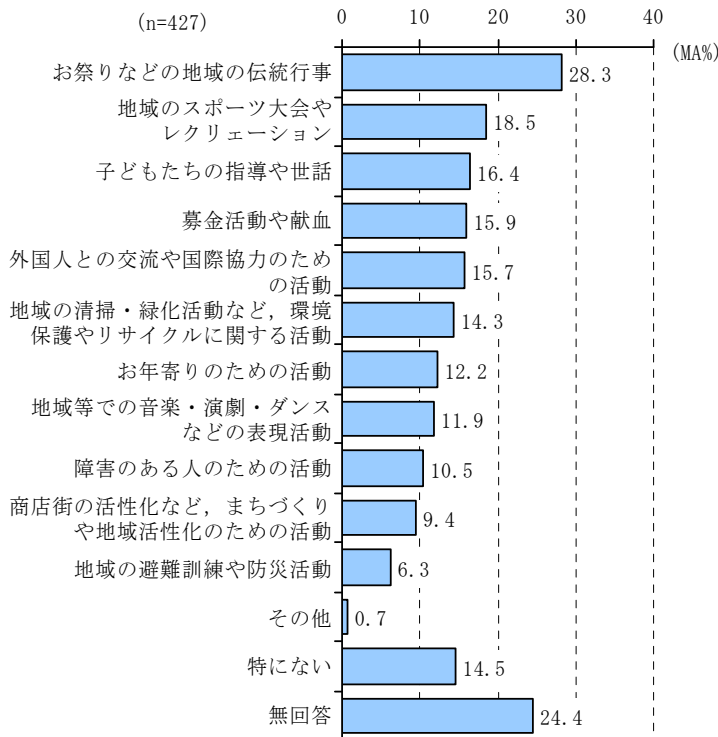
○地域活動への参加の動機付けとなるのは身近な人からの口コミであることがわかる。

### (4) 参加しなかった理由



○地域活動への参加経験が「特にない」と回答した人に、その理由をたずねると、「忙しくて時間がない」が46.3%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」(44.7%),「どのような活動があるのか知らない」(36.7%),「もともと興味・関心がない」となっている。

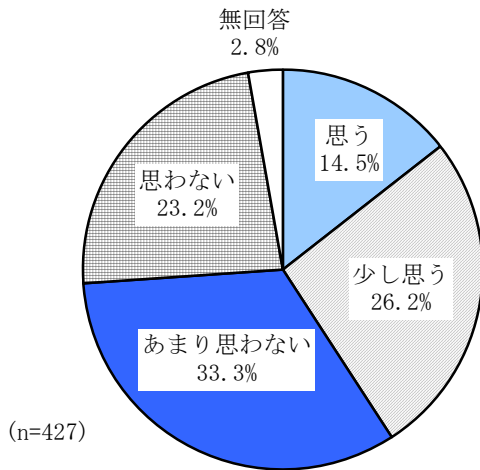
### (5) 今後参加してみたい活動



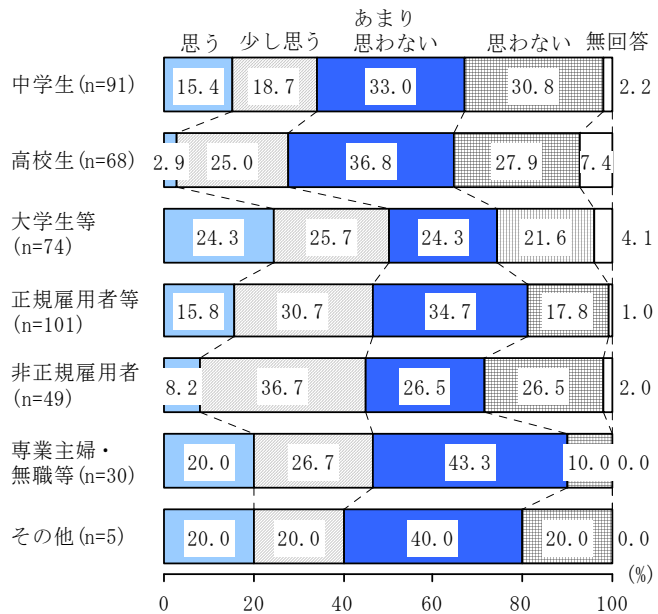
○「お祭りなどの地域の伝統行事」が28.3%で最も多く、次いで「地域のスポーツ大会やレクリエーション」(18.5%)、「子どもたちの指導や世話」(16.4%)、「募金活動や献血」(15.9%)、「外国人との交流や国際協力のための活動」(15.7%)となっている。

## 5 市政やまちづくりについて

### (1) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向



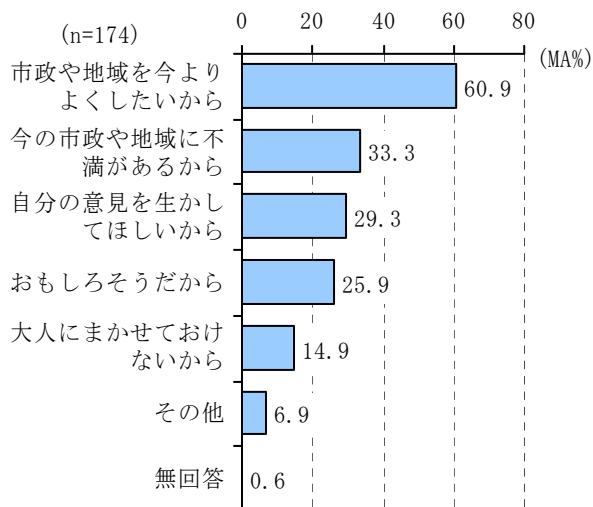
○「述べてみたいと思わない」(「あまり思わない」と「思わない」を合わせた割合)は56.5%となっている。



○大学生等は「述べてみたいと思う」(50.0%)が多いのに対し、それ以外では「述べてみたいと思わない」が多く、特に高校生は64.7%と高い。

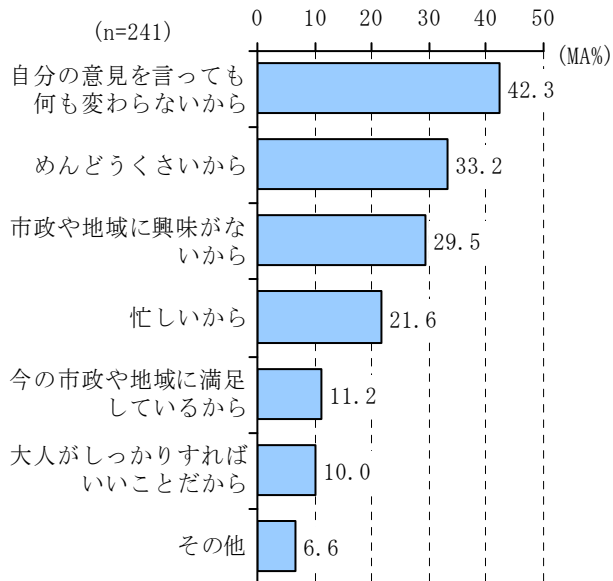
○中学生・高校生とそれ以外で考え方に大きな違いがみられるのは、政治や社会全体の動向などに対する関心度の差が表れている結果だと考えられる。

(2) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したい理由



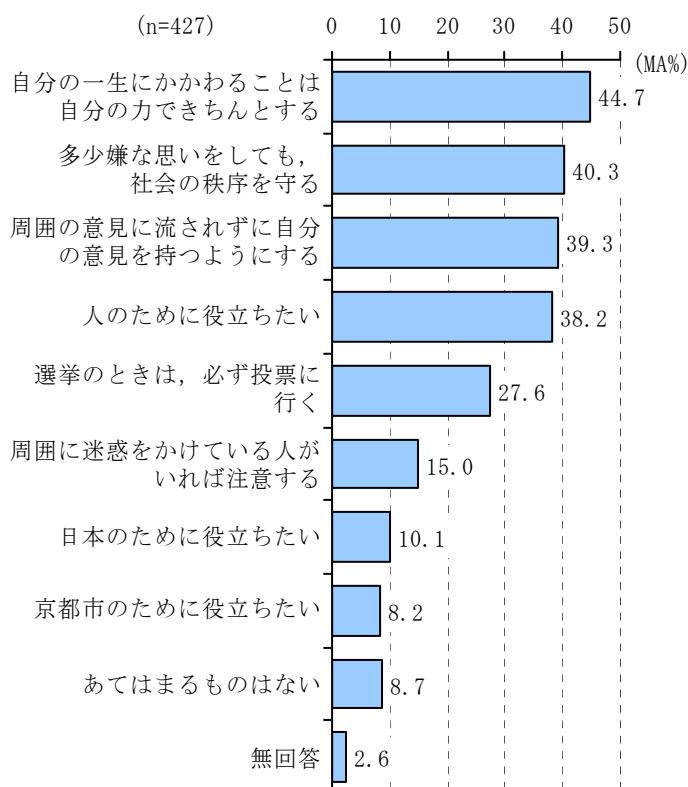
○市政やまちづくりに関して「意見を述べてみたいと思う」と回答した人に、その理由をたずねると、「市政や地域を今よりよくしたいから」(60.9%)が最も多く、自分たち自身でまちを良くしたいという前向きな考え方をもっている様子が見えてくる。

(3) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したくない理由



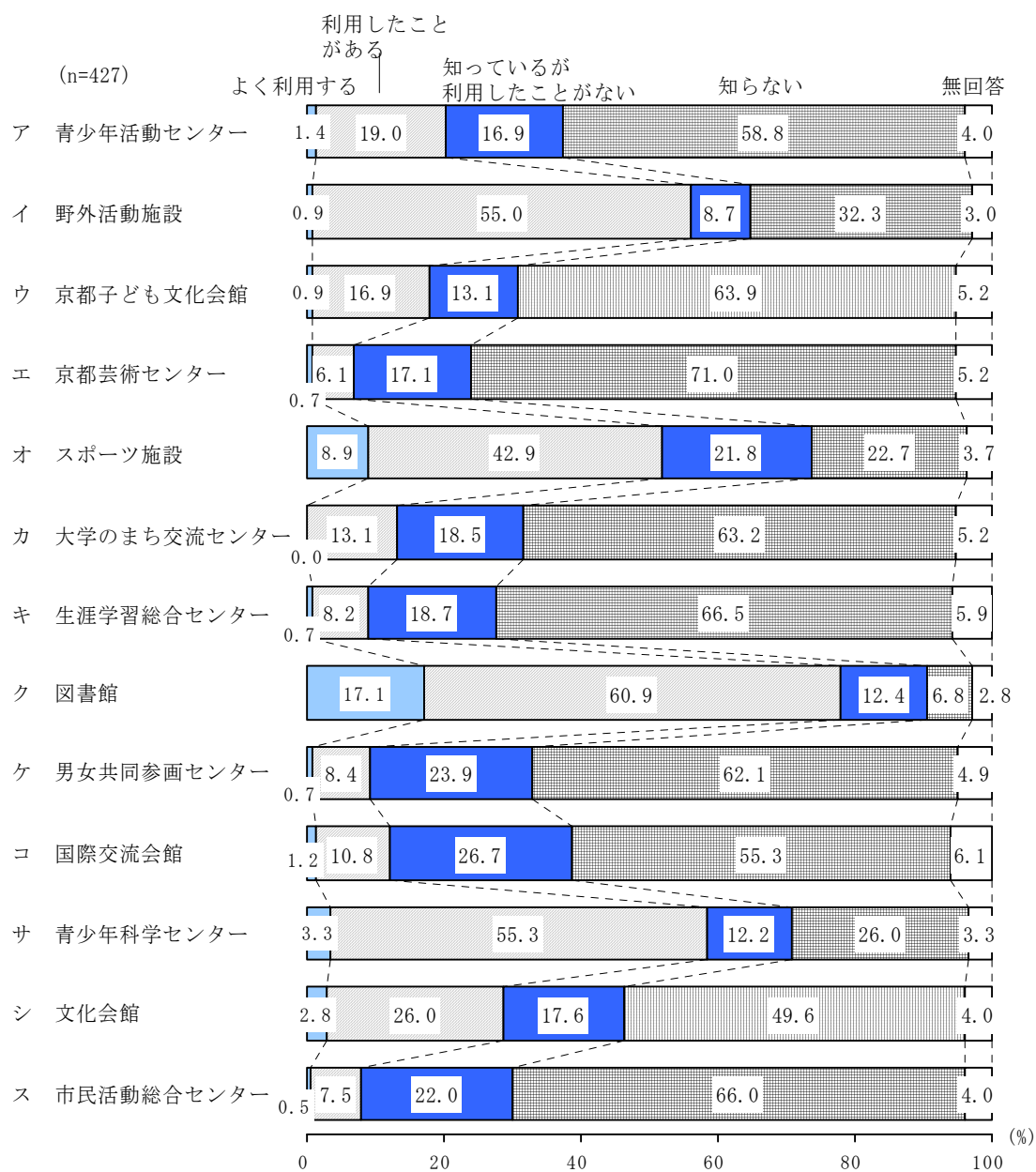
○市政やまちづくりに関して「意見を述べたいと思わない」と回答した人に、その理由をたずねると、「自分の意見を言っても何も変わらないから」(42.3%)が最も多く、あきらめ感が強くなっている。

(4) 社会の一員として心がけていること



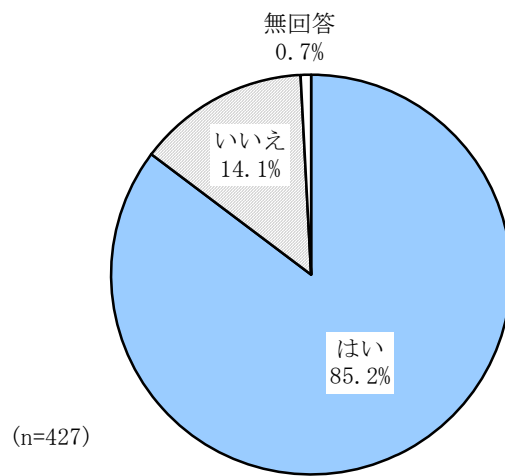
○「自分の一生にかかわることは自分の力できちんとする」が44.7%で最も多く、次いで「多少嫌な思いをしても、社会の秩序を守る」(40.3%)、「周囲の意見に流されずに自分の意見を持つようにする」(39.3%)、「人のために役立ちたい」(38.2%)となっている。

## 6 青少年施設の利用状況



- 「よく利用する」施設は、「ク 図書館」が17.1%で最も高く、次いで「オ スポーツ施設」(8.9%)となっている。
- 利用率(「よく利用する」と「利用したことがある」を合わせた割合)でも「ク 図書館」が78.0%で最も高く、次いで「サ 青少年科学センター」(58.6%)となっている。
- 青少年活動の中核施設である「ア 青少年活動センター」については、「知らない」が58.8%で、認知度の向上が課題である。

## 7 京都に対する愛着意識



○京都に愛着がある青少年が85.2%に対し，ない青少年は14.1%となっている。